令和6年度 第4回 韮崎市スポーツ推進審議会 議事録(要旨)

日時： 令和7年2月28日(金) 午後4時00分

場所： 韮崎市役所 別館3階会議室

出席者： 金丸委員、横内委員、佐々木委員、小山委員、奥山委員、平賀委員、山本委員

欠席者： 五十嵐委員、佐藤委員

事務局： 韮崎市教育委員会(堀川教育長、教育課長、教育課スポーツ振興担当)

公益財団法人 山梨総合研究所

開会(16:00)

1. 開会

司 会： 次第に基づき進行する。

2. 教育長あいさつ

司 会： 開会にあたり、堀川教育長よりご挨拶申し上げます。

(堀川教育長あいさつ)

3. 議事

司 会： 進行は■■■■会長にお願いする。

■■■■会長： それでは、まず、議題の(1)最終案について、事務局より説明を願う。

事 務 局： (資料に基づき説明)

■■■■会長： この際なので、委員一人ひとり、それぞれの立場からご意見を頂戴したい。

■■■■委員： 重点施策が1～5の5つで非常にわかりやすくまとめていただいた。気になったのが、私が大学に所属しているからか、44頁の推進体制の図の中に「教育機関」とあるが、その後の説明にも教育機関の記載があれば良いと思った。

事 務 局： 主な部分を抜粋して記載したが、記載がない団体についても追記させていただく。

■■■■委員： 34頁の重点施策の文言について、「幼児期において様々なスポーツ」とあるが、幼児期はスポーツより主に「遊び」ではないかと感じている。中学生となれば「スポーツ」となるので、小学生以下はスポーツではなく「運動や遊び」といった表現でどうか。成果指標の方は「スポーツ実施率」で統一されているが、本文については、子育てや親子で楽しむといったイベントとなっているので、「スポーツ」というよりも「遊び」という方が良いと感じた。また、3頁のスポーツの定義のところで、国により新しく入った3つは「要素」ではなく「視点」ではないかと思う。あとは、基本理念について、できるだけチラシやイベントに入れる場合はもう少し短めの言葉が良いと思う。加えて、ニーラのイラストもチラシやイベントで使えるようスポーツバージョンがあったら良いと思う。

委員：確かに幼児期に「スポーツ」は固いかと思うが、一般的に「遊び」はどこまでの範囲を言うのだろうか。遊びというと、ゲームも全て遊びである印象である。スポーツに準ずる遊びと読むのか、体を動かせればそれでいいのか。どういう風に伝えるのが良いのか。

委員：学校で言うと様々な動きや運動といった「動きづくり」に付随して子どもたちが遊びを考える。ゲームでも目の動きもあるから遊びの1つであると思う。幼児期は固定したものよりも、色々な動きづくりとしての「遊び」だと思う。ただ、幼児期のものに「スポーツ」という言葉はあまり出てこないと感じる。

委員：そこまで詳しくはないが、スポーツの語源はもともと「遊び」からスタートしているので、「スポーツ＝遊び」という概念はある。

委員：先日まちづくりの会議に出席したが、市民の皆さんが冊子を見ても恐らく読まないため、こうしてダイジェスト版としてまとめた方が良くと思った。まちづくりの方もきれいにまとめていただいたので、すごく良いと思った。後はこれをどこで手に取っていただくか、どこで見てもらえるかという次のアクションが大事。さらに、この後の評価や、実際どこでどういうふう成果指標を見ていくかが大事になると思う。よくまとめただけだと思う。

委員：しっかりとしたものをまとめていただいた。今後は市民の皆さんがどれだけ意識していただけるか、作戦を立ててできるだけ広げていけたら良いと思う。また、「だれもが身近に親しむ」という基本理念を、形だけでなく中身の伴ったものにしていかなくてはいけない。計画に従って各種事業を進めていくと、変えなければいけない部分が出てくると思うので、そういうところを上手く取り組んでいただきたい。自分はスポーツコミッションやスポーツツーリズムでイベントなどをやらせていただいているので、コツコツでできることをやらせていただき、この目標が達成できるよう頑張っていきたい。

委員：重点施策をまとめていただき、非常にわかりやすかつ具体的で、聞いたときに誰しもがイメージしやすい言葉で並べられていると思った。私たちが2025年9月から葦崎中央体育館を運営するにあたって、計画に記載の内容を重点的に取り組んでいかなければと改めて思った。特に子どもの運動機会の創出や部活動への地域移行の部分で、各市町村から様々な問い合わせがあったりする。千葉県でもヒアリングをさせていただいたが、けっこう民間企業に委託されているので、葦崎市でも何か協力できたらと考えている。気になったところとして2点。ところどころに「プロスポーツチーム」と「トップスポーツチーム」という言葉がある。使い分けがしっかりできていれば良いが、少し気になった。また、45頁で、指定管理者((株)ミズノ)とあるが、ミズノ(株)なので修正いただきたい。あとは、指定管理者かPFI事業者なのか、確認が必要かもしれない。

事務局：文言は確認して統一させていただく。

委員：前回の資料の厚さに戸惑ったが、より目を通しやすくなった。委員からあったように、絵に描いた餅にならないよう、これをもとにプレッシャーも感じながら、目標となっている数値を少しでも多くあげられるよう努力していきたい。修正点として、7頁の

「フットサル」は今は葦崎スポーツクラブでは行っていないので消してもらい、「バレーボール」を「ソフトバレーボール」に修正いただきたい。

■会長：子どもの遊びや体を動かすことは指導者も含めて継続できれば良いが、そう上手くいかないと感じている。全国のスポーツ推進協議会の事例発表でも質問したが、ルールを変えていけば継続するのではないかとの回答をもらった。学校でも、ある校長先生がグラウンドに色々な遊具を設置したが、校長先生が異動したら一年でなくなってしまったこともある。例えば、総合運動場の整備とあるが、整備だけでなく、制約なく自由に使えるよう遊ぶ環境ができれば良いと思う。そうでないと恐らく継続しない。そのときは遊ぶかもしれないけど次にまた遊ぶとは思えない。その「整備」の中に、もう少し踏み込んだ内容を書いて欲しいと感じた。

■委員：子どもたちが遊ぶ学校のグラウンドの整備計画はあるのか。例えば、私の同級生のいる藤枝市は学校のグラウンドは人口芝に変わったりしている。

堀川教育長：必要があればそう変わっていくかもしれない。今市内のグラウンドは、例えば引き渡し訓練時や何かあったときに車が使用できるよう、場所によっては駐車場にできるようにしている。学校によって事情があるが、芝生化が必要になればそうなるかもしれない。ただ、子どもたちは休み時間になればすぐ外に遊びに行っている。サッカーを教えに来てもらった次の日は、それをヒントにしてまた遊びが広がっている。子どもたちは小学校では休み時間によく遊んでいるが、地域の子どもたちが減っているからか、地域に帰ってからは遊んでいないように感じる。

■委員：小学校のグラウンドに芝を植えるという話もあったが、なかなか難しい。学校のグラウンド整備をしていただくとそれはそれでありがたいし、芝はとても良いが、それに対する管理がとても難しい。先ほどの金丸会長のお話にもあったように、子どもたちにはブームがあるのでずっと同じもので遊ばない。しかしそれが良い。ブームがあって今流行っていることを夢中でどんどんやっていくのでその運動ができる。葦崎市のサッカー協会の方に来ていただいているサッカー教室も、2回を2時間でなく日を分けてやってもらっているので、最初のきっかけづくりになりそこで子どもたちが学んで、また次のきっかけとなって良いと思っている。県の方でも山梨チャンピオンという取組があり、ロングランニング、シャトルリレー、エイトマン、馬跳びやドッチラリーなど、色々な遊びにチャレンジして、それを年間もしくは月ごとでチャンピオンを決めるというものを学校別で取り組んでいる。ブームがある子どもたちをどう乗せていくか、どうきっかけづくりをしていくかが、大人たちの役目だと思う。

■会長：子どもの遊びのことで、市内の小学生が自分と全く関係ないスポーツにチャレンジするという雰囲気はないか。私は綱引きの大会に関わっているが、忍野村、鳴沢村、大月市のチームは来るが、葦崎市の場合、県外の大会に出ている小学校はない。綱引きの県の選手権大会に、学校で何チームか作って参加していただき、今回は鳴沢村のチームが優勝して全国大会まで行った。学校に参加をお願いしたこともあるが、それは学

校じゃできないので、必要であれば選手を探してくれと言われた。韮崎市の小学校ではそういうチャレンジをすることがないような気がする。

委員：子どもが出たいというのであれば結構協力している。大月市や他の自治体は地域のチームではないだろうか。数年前はドッチボールがあったが、今は子どもの数も少なく、それを募るとなると人の取り合いでなかなか難しい。学校運営協議会のCSという形で、市内の小中学校が地域のスポーツ協会と連携して、子どもたちがチャレンジできるようになれば良いと思う。子どもも職員も少ないので、学校だけで取り組むのはなかなか難しい。保護者や地域の方の力を借りてやらないと難しいので、地域とつながって取り組んでいてもらいたい。

委員：部活動の地域移行の関係で、本学は今年度スポーツ庁からの委託事業として、本学の学生や山梨大学、都留文科大学の学生を含め、中学生の外部指導のための指導者養成の事業を行った。合計55名くらいの学生が受講し、10回の講義と試験を受けて合格すれば、「山梨スポーツ指導者」という形で県が認定証を発行してくれる。そこから自治体とのマッチングということで、アスフィール株式会社との連携でマッチングシステムを作っていた。スポーツ庁の委託事業が2025年1月末に終了してしまったため、期間が1ヶ月しかなかったが、全部で6件マッチングした。韮崎市もバレーボールでマッチングし、学生が指導に行っている。これが単年度の事業なので、来年度どうするかは県と相談する必要があるが、地域移行としてはこういった活動もしている。

事務局：山梨学院大学にもご協力いただき、指導者として出ている。モデルということで今年は東中学校、来年から西中学校にも続けていただくことになっている。いただいた意見をまとめると、計画の具体的な修正点として、「子どものスポーツ機会の充実」というところで、子どものスポーツというところを「運動」といった言い回しに変えるということ。次に、委員からいただいた44頁の推進体制について、主な関係団体としてまとめたところであるが、図にあるとおり、それぞれの団体ごとに記載する。続いて、会長から「整備」についてご意見をいただいた。韮崎市の新体育館ができた後には市営総合運動場の広場にするとということで、委員からもこれまでの会議の中で「芝生広場の開放」という市民の意見が多いとのご意見もいただいた。26頁にあるとおりアンケートでも意見をいただいているため、具体的に協議させていただくとともに、こういった意見があるということも計画の中に書き込み、今後も自由に使えるような施設の取り組みも含めて、計画の進捗管理をしていくよう進めていきたい。文言の修正については、事務局及び山梨総研で検討させていただき、その後は会長に確認いただいた上でパブリックコメントにかけさせていただく。

(2)パブリックコメントについて

会長：議題の(2)パブリックコメントについて、事務局より説明を願う。

事務局：(資料に基づき説明)

■■■■会長:どのような意見があったかは委員に共有してもらえるのか。

事務局:意見があれば、ホームページ上で公開する。必ずしも計画に反映できるかどうかは分からないが、出された意見については委員にも共有させていただく。

(3)その他

■■■■会長:議題の(3)その他について、事務局から何かあれば説明を願う。

事務局:特になし。

4. 閉会

事務局:閉会のあいさつを■■■■副会長からお願いする。

(■■■■副会長あいさつ)

閉会(17:00)